



# 総合患者支援センターニュース

Integrated Support Center for Patients and Self-learning  
Okayama University Hospital

〒700-8558  
岡山市鹿田町2丁目5番1号  
岡山大学病院 総合患者支援センター  
☎ 086-223-7151 (代表)  
☎ 086-235-7744 (直通)

## 岡山大学病院腫瘍センターの目指すところ

岡山大学病院腫瘍センター長 田端 雅弘

当院は昨年8月に厚生労働大臣より岡山県における「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、①地域における質の高いがん医療体制の整備、②地域の医療機関との診療連携の推進、③患者さまに対する相談支援機能（がん相談）の整備を推進することを求められております。平たく言うと「日本国中何処に住んでいても分け隔てなく高度な水準のがん医療を受ける事が出来る体制作り」に貢献するためにがん拠点病院制度が設立されています。これを受けて岡山大学病院では昨年10月1日に「腫瘍センター」が開設されました。腫瘍センターには「外来化学療法部門」、「がん診療地域連携・研修支援部門」、「がん登録部門」の3部門が設けられ、院内および地域のがん診療に貢献すべく基盤整備を進めており



ます。外来化学療法部門では昨年の10月2日には外来棟4階に20床に増床した外来化学療法室をリニューアルオープンし、患者さまが安心かつ快適に外来通院で化学療法を受けられるように体制を整えております。また、地域より強く求められている「がん相談支援機能」に関しましては、総合患者相談支援センターの皆様にご多大なご支援を頂き、医療ソーシャルワーカーと臨床心理士の各1名を増員していただけることとなり、心のケアを含めた患者さまの

相談にひろく対応できる体制が整いつつあります。今年度中には外来棟4階の腫瘍センターに「がん相談」の受付を設置し、院内および院外の患者さまとその家族へ「がん相談支援」を提供し、地域がん医療の向上に貢献できればと考えております。その際にはお気軽にご利用いただけるようお願いいたします。残念ながら現在の内容はまだまだ未完成で、皆様のご要望にお応えできない部分も多々あると思います。今後、皆様からのご意見ご要望も参考にして日々内容を充実させていく所存でありますので、ご支援とご協力をお願いいたします。

2007年1月1日  
病院名が「岡山大学病院」  
に変わりました





# オストメイト支援チーム

総合患者支援センター 副看護師長 奥野 信枝



2002年10月、総合患者支援センター設立より、私たちの活動がスタートしました。「オストメイト支援チーム（OST）」は、専門職として、オストメイトの方々を支援し続けます。



## オストメイトとは

様々な病気や障害などが原因で、腹壁に造られた便や尿の排泄口のことを人工肛門・人工膀胱（ストーマ）といい、ストーマを持っている人のことを『オストメイト』と呼びます。ストーマは排泄を自分でコントロールできないため、お腹に装具（袋）をつけて便や尿を溜めて処理しています。

私たちはこんな活動を続けています。

- 院内共通パンフレット（改定第2版）を作成し各病棟に配布。院内どこでも使用できるようになりました。
- 院内定期勉強会（6月～計8回）を開催しています。院内医療者が対象です。
- 情報提供は、外科外来に掲示板を設置。新商品紹介などの情報を随時掲示しています。
- OSTピアサポーター（すでに社会復帰しているオストメイトが、術前・術後のオストメイトを訪問して、社会復帰のお手伝いをする活動）研修の実施と活動を行っています。（▶現在4名登録）



オストメイトサロンは、オストメイトの自治による患者会です。今年で4年目になります。

開催日：毎月 第1木曜日

（1・5月は第2木曜日となります）

場所：総合患者支援センター

（西病棟1階、多目的学習室Ⅰ）

時間：10:00～15:00

参加自由（当院の患者様に限りません）  
予約なし・無料・出入りも自由です。

お問い合わせは、総合患者支援センターへ

ストーマ外来は、現在、月50～60名のオストメイトのケア・相談を行っています。

月曜日・木曜日 9:30～15:30（予約制）

場所：外科外来

直通電話 086-235-7928

ご予約の受付は、平日（火曜を除く）

14:00～17:00

在宅オストメイトの相談もお受けしています。



WOC認定看護師  
青井 美由紀

## 認定看護師 紹介

重症集中ケア認定看護師 足羽 孝子



重症集中ケアとは、聞きなれない言葉ですが、いろいろな病気の急性期（病態が安定しない場合）や重症な状態にある患者様を集中的に治療及び看護する領域のことを言います。いわゆるICU（集中治療室）と言われる領域です。重症集中ケア認定看護師は、そういった患者様の日々の生活のお手伝いをし、なるべく早く元の生活ができるように、病態を的確に見極め、リハビリテーションをすすめていくことが中心的な役割となっています。しかし、私の活動の場はICUの中だけではありません。当院は、急性期病院で重症な患者様がたくさんおられ、最近では、人工呼吸器をもって在宅に移られる患者様もいらっしゃいます。病棟での人工呼吸管理も含め呼吸管理等のご相談はいつでもご連絡ください。

また、当院には、私を含め重症集中ケア認定看護師は2名います。さらに、来年度もう一人増える予定です。来年度は、3人で組織的な活動を行なっていきたいと考えています。

今年もよろしくお願ひ致します。

## 情報コーナーのご案内

西病棟から南病棟にかけて、情報コーナーを設置し、患者様向けの医療情報の掲示、関連用具の展示を定期的に行っています。

今期間は、医療安全管理部による『医療安全について』がテーマです。

### 医療安全管理部 紹介

医療安全管理部 ゼネラルリスクマネジャー 保科 英子

医療安全管理部は、病院の医療事故の防止および医療の安全性の向上のために、

- ◆ヒヤリハット報告や医療事故報告の分析
- ◆医療事故防止対策の立案
- ◆職員の安全教育・研修の企画・運営
- ◆医療事故相談

などを行う、病院長直轄の部門です。

入院のしおりの中に、右のようなページがあるのをご存知ですか？

患者様の安全には、患者様と医療者（職員）の共同行動が大切だと考えています。5項目のうち、やりやすいことからはじめてみてください。

職員も、患者様から言われる前に、共同行動を率先してやっていくつもりです。最近、力を入れていることは、『患者様のお名前の確認』です。注射をするとき、採血をする時、お薬を渡すとき、検査をするとき、等々。

もし、していない病院職員に出会ったら、医療安全管理部へご一報ください（連絡先内線：6547 TEL：235-6547、あるいは退院時アンケートへの記入、患者の声へ投書、病院のホームページからのメール）。

### 貴方の安全を守るための医療者との共同行動

#### Patient safety action

- ① 大事なことや伝えたいことはメモをとりましょう。
- ② 今後の治療や見通しを聞きましょう。
- ③ 疑問や納得できない点は何度も質問をしましょう。
- ④ 自覚症状や病歴はあなたが伝える大切な情報です。
- ⑤ 対話によりお互いの理解を深めましょう。

あなたの担当医師・  
担当看護師を  
知っていますか？

あなたが入院中“ヒヤリ”  
としたことについて、病院  
スタッフと話しましたか？

今、受けている検査や、  
今、飲んでいる薬は説明  
を受けましたか？



その薬はあなたのもの  
か確認しましたか？

医療者にわからないことが  
いつでも聞けますか？

検査や処置の結果を  
聞きましたか？



岡山大学医学部 歯学部附属病院 医療安全管理部



## こころのケア

(第7回)

<医学生へのこころのケアはどうなっているのでしょうか？>



副センター長 岡田 宏基

医学部に入学した学生は、6年間の教育を受けることになります。その中で、医学生は患者さまの身体だけでなく、その心理・社会的な背景を診ることをどのように学ぶのでしょうか。私たちが医学教育を受けた20年前は、そのような視点での教育はほとんどありませんでした。昨今の医学教育は、医学的知識の習得のみならず、臨床的な実習（技能）に重点を置くようになってきています。実習の中では、基本的な身体診察の仕方の他に、「医療面接」という項目があり、ここで、患者さまとのコミュニケーションの技術を習得します。患者さまとの出会いの場面での挨拶、自己紹介、患者さまの緊張を和らげるような言葉かけ、に始まって、症状の経過をお聞きするわけですが、その中で、患者さまの社会的な背景や、その時々のお気持ちを聴くように指導されます。何か、これまでの生活の中で大きな変化がありましたか？ 最近何かご心配なことがありますか？ などというようにです。皆様が病棟や外来で出会う医学生は既にこのような教育を受けた学生ですので、このような配慮ができていますと期待しているのですが、果たしてどうでしょうか？ 心身医学の専門医にならなくとも、あらゆる領域の医療現場で、患者さまの心理・社会的な背景にも配慮ができるような医師を育成するべく、私たちは日々医学生への教育を行っています。

## ～本の紹介～

### 子供のための歯の絵本

岡山大学病院小児歯科 歯科医師 松村 誠士

こどもの成長過程で、乳歯がぬけて永久歯が生えるときはときは一イベントです。なにしろ初めての経験ですから、子供も親も関心が高いのです。

「歯がぬけた」(中川ひろたか(作), 大島妙子(絵) PHP 研究所)は表紙がとてもユニークです。一度みたら忘れられません。歯の抜けた隙間で楽しいことができた・・・にこっと笑ったとき歯がなくてもかわいらしいのはこの時期だけです。

抜けた乳歯を皆さんはどうしていますか。日本では「下の歯は屋根の上に、上の歯は縁側の下に投げよう」と昔より教えられましたが、アメリカやヨーロッパでは枕の下において寝ると、歯の妖精が夜にお金と取り替えてくれるそうです。「はがぬけたらどうするの?—せかいのこどもたちのはなし」(セルビー・ピーラー(著), ブライアン・カラス(絵), こだまともこ(翻訳) フレーベル館)は子供だけでなく大人も楽しめます。世界の民俗学が垣間見られます。このほか、歯の役割を優しく教える本「口を大きくあけて!—歯の学校はこちらです」(ローリー・ケラー(作), 木坂涼(翻訳) 講談社)もあります。

「ノントンはみがき はーみー」(清野幸子 偕成社)は歯が生え始めた乳児が親しめる本です。

読み物としておもしろいのは「わにさんどきつ はいしゃさんどきつ」(五味太郎, 偕成社)や「歯いしゃのチュー先生」(ウィリアムスタイク作 うつみまお翻訳, 評論社)などがあります。前者の患者さんは「わに」後者は「きつね」。歯医者に行くのは苦手です。ところが、歯医者さんは怖い「わに」や「きつね」が苦手です。でも歯医者さんは困っている人の味方です。どうなるでしょうか。



歯はいつも大事にしたいもの。子供も大人も楽しめる歯の絵本はいかがですか。

当院では毎年、病院ボランティアの方へ感謝状を贈呈しています。  
今年度の感謝状贈呈式・交流会を12月8日に開催しました。

## 感謝状を受けたボランティアの方

[活動時間1000時間]

中谷 昌子 様

感謝状を頂きましてありがとうございました。主婦の私ができるボランティアとして病院ボランティアを選択してから、いきいきと生活できています。活動を通して友達の輪も広がり、人生は広がっていくことを知りました。回を重ねるごとに楽しくなり、普通の暮らしの中で培った力を、小さくても良いからキラリと輝く存在であり続けたいと思います。

[活動時間500時間]

太田 葉子 様

患者図書室の活動に参加して3年過ぎました。仕事の関係で最初の2年程は図書の登録作業のみでしたが、昨年4月からは午前中の貸出サービスにも参加しています。患者様がどんな本を借り、どんな情報が必要としているのか現実に見ることができ、活動の幅が広がったように思います。患者様の目線で今後も活動していきたいと改めて考えています。

[活動時間200時間]

三木 弘子 様

窓越しにプランター植の花々が見える図書室でボランティア活動をさせて頂いています。水曜日だけのボランティアで表彰して下さいましてありがとうございました。私にとっては難しい課題ですが、やさしい笑顔とホッと空間が作れる事を心掛けたいと思っています。

柳井 米子 様

図書ボランティアをさせて頂いて、短い期間ですがいろいろと学ばせて頂くこと多く、大変勉強になりました。患者支援センターのスタッフの方々、そしてご一緒させて頂いたボランティアの方々へ感謝致します。ありがとうございました。

